

□CAPD患者における動脈硬化と非対称性ジメチルアルギニン(ADMA)の検討

第46回日本透析医学会学術集会・総会（2001年6月22日～24日 大阪）

桐林 慶、高杉敬久（博愛病院）

倉恒正利、浅木森幸晃、頼岡徳在（広島大学第二内科）

【目的】

内因性NO合成阻害物質である非対称性ジメチルアルギニン(ADMA)は、血管組織のNO代謝や血管内皮機能に影響を与えるとされている。慢性腎不全患者においてはADMAが蓄積し、このことが動脈硬化につながる危険因子であると報告されている。

今回、CAPD患者における動脈硬化病変に対するADMAとNO代謝の関与を明らかにするためにADMAおよびNOxと頸動脈の内膜・中膜厚 (IMT)との関連を検討した。

【対象・方法】

対象は、当院でCAPDを行っている患者のうち、原疾患を慢性糸球体腎炎とする21名。

性別 male:12, female:9

年齢 51.5 ± 9.9 才

体重 57.0 ± 8.6 kg

腹膜透析期間 84.5 ± 40.5 ヶ月

対象CAPD患者21名において空腹時採血を行い、血漿ADMA、NOx濃度を測定した。

さらにIMTを超音波診断装置を用いて計測した。なお、IMTはHITACHI ECHOPAL EUB-405X 10MHzのProbeを用い、総頸動脈内膜中膜複合体を測定し、最大肥厚部とその前後1cmの3点の平均値を肥厚度とした。

【結果】

IMTと年齢 ($r=0.440$, $p<0.05$)、IMTとADMA ($r=0.462$, $p<0.05$)との間にはいずれも有意な相関がえられた。しかし、IMTとNO_x、ADMAとNO_xの間には有意な相関はえられなかった。

【結語】

CAPD患者においては、ADMAが動脈硬化病変と密接に関連していることが示唆された。血漿NO_x濃度にはADMAによるNO合成阻害以外の因子の関与が推測された。